

報告者：田沢雄二郎

1. 講演会の名称

「東日本大震災とこれからのコンクリート技術」

日本コンクリート工学会中部支部主催、北陸三県コンクリート診断士会共催

2. 開催日：平成 24 年 11 月 30 日

3. 開催場所：福井県織協ビル 8 階ホール

4. 参加者：約 150 名

5. 講演テーマ及び概要

1. 特別講演

「レジリエントな国土の創造へ～大震災を経て問われる日本人の覚悟～」

財団法人国土技術開発センター理事長 大石久和氏

概要：講演者は、長年我が国の建設行政に携わってこられてきた方で、国土に働きかけるインフラ整備とその恩恵の体系、社会資本整備の哲学である「国土学」を提唱してきており、今回の講演も日本の経済の状態（GDPの推移）、新たな国土経済、これまで進められてきた構造改革(特に小泉、竹中両氏による政策)の功罪など、我が国が現在抱える経済問題を具体的な数字を示しながら広範囲にわたっての講演であった。

特に、現在我が国が置かれている経済状況は非常に厳しいものであることを強調されていた。なお、これらの講演の内容は、近著「日本人はなぜ大災害を受け止められることが出来るのか(海竜社、2011.10)」,「国土と日本人 災害大国の生き方(中公新書、2012.2)」に詳しく述べられているとのことであった。

2. 東日本大震災とこれからのコンクリート技術・・・土木構造物編

社団法人プレストレスとコンクリート建設業協会技術部会部会長 西垣義彦氏

概要：最初に東日本大震災の地震の概要の説明があり、続いて今回の地震で被災したPC橋の調査結果及びこれからの災害への対策を中心としての講演であった。調査箇所は、岩手、宮城、茨木、山形、福島と広範囲にわたり、調査数は1235橋に及んでおり、代表的な被害例を写真で紹介された。これからの調査結果から、今回の大震災では地震動による被害は少なくむしろ津波による被害が大きかったことを含めて、10項目にわたり調査結果を要約しており、さらに、今後の津波対策として4項目に分類して種々の提案を行い、その具体的な紹介があった。

3. 東日本大震災とこれからのコンクリート技術・・・建築構造物編

福井大学大学院工学研究科建設工学専攻准教授 磯雅人氏

概要：前講演と同様に地震の概要の説明の後、建築物の被災の状況の報告があった。土木構造物と同様に、建築構造物においても地震による被害よりも津波による被害が多かった。地震による被害として、一般住宅、鉄筋コンクリート構造物、鉄骨構造物の種類ごとに分けて、その被害の実情の説明があった。津波による被害としては、一般住宅の状況はもちろん、すでに多くの報道機関からも報告されている転倒構造物の状況などの説明があった。またそれらの被害とは別に、地滑り、地盤沈下、液状化による被害の報告もあり、最後に、住宅及びR C， S 造の被害のまとめと今後の提言がなされた。

#### 4. 東日本大震災とこれからのコンクリート技術・・・放射性物質封じ込め技術編

独立行政法人国立環境研究所資源・循環廃棄物研究センターフェロー 山田和夫氏  
概要：東日本大震災により発生した原発事故に関して、放射能とコンクリートとの関係を中心にした講演であった。まず、放射能の性質、放射性物質に汚染された焼却灰の処理、中間貯蔵処理施設、等の話が続いて、これらに対するコンクリート技術の貢献についての話があった。そして最後に原子力施設におけるコンクリート技術の重要性、特にその施工技術及び耐久性に関して専門家のアドバイスが必要との話があった。

#### 6. 所感

講演会は非常に盛会で参加者も多く、内容的にも非常に興味のあるものであった。また、講演会の運営もスムーズで、周到な準備のもとで講演会が開催された感じを受けた。

講演内容の概要はすでに述べたとおりであり、日本経済の厳しい現状から、われわれの身近な土木・建築構造物の震災による被害と今後の対策、放射能とコンクリート技術の関係及びその貢献について非常に多岐にわたる分野の講演であった。

是非、講演内容を全国の地区診断士会に展開できればと願う次第である。例えば日本コンクリート診断士会のホームページで紹介していただくのも一つの方法と考えられる。

報告者は、地震から一か月後に当会から現地調査に派遣させていただいており、当時の状況が思い出され感慨深いものがあった。

なお、当日の配布資料は一式 J C D 及び T C D 事務局でも保管しているので興味のある方はご連絡いただきたい。

以上